



中国西部

青海

Q I N G H A I

WEST
CHINA



青海

WEST CHINA • QINGHAI

五洲传播出版社

現行図書目録 (CIP) データ

青海/青海省人民政府報道弁公室編集. — 北京: 五洲伝播出版社, 2002. 1

ISBN 7-5085-0010-5

I. 青… II. 青… III. 青海省—概況—日文 IV. K924.4

中国版図書館 CIP データ核字 (2002) 第 001782 号

中国西部——青海

顧問	宋秀岩	白 瑪							
編集長	曲青山								
副編集長	曹 萍	劉貴有							
編集者	陶 林	宋江涛	高玉峰	耿占坤					
編集責任者	荊孝敏								
著者	耿占坤								
執筆依頼者	蔡 征	賈芸叢	王文剛	趙健生	柏 崗	楊 涛	周永莉		
写真	干章林	馬季春	馬福江	馬建儒	王精業	王新康	王会相		
	王殿邦	王之楓	王柄西	王啓發	王樹忠	王祖銓	王 静		
	王 平	王建斌	王艦艇	巴延生	韋 熹	東主瑤布	蘭生忠		
	尕瑪図嘎	孫愛英	戴隨剛	李海生	李全举	李書海	李万竜		
	李華旦	劉貴有	劉湘俊	劉金新	劉 河	朱文生	邵 雲		
	陳宜強	陳学斌	吳大偉	張岳山	張英華	張振録	張海軍		
	金曉明	金元萍	周家康	周先加	郭玉偉	郭武平	趙力平		
	姜維舟	姚宝元	高玉峰	高元洪	海憶水	耿占坤	晁生林		
	楊永軍	楊碧霞	曹衛国	董天安	董才良	強 涛	葛玉修		
	蔡 征	戴培榮	魏宝元						
翻 訳	施殿文	韓秀榮							
校 閲	林国本								
表紙デザイン	閻志傑								
レイアウト	劉立華								

中国西部——青海

五洲伝播出版社

住所 中国北京北三環中路 31 号 郵便番号 100088

電話 82008174 ウェブサイト www.cicc.org.cn

判型 140mm×203mm 1/32 印張 3.75

2002 年 1 月第一版 第一回印刷 発行部数 5000 冊

ISBN 7-5085-0010-5/K·306 価格 26.00 元

まえがき



中国の西部地区で進められている大開発は「世紀プロジェクト」と称され、西部地区発展の明るい見通しと大きな投資チャンスをもたらすものとして、世界の注目を集めている。

現在、中国西部の資源、投資環境を調査、研究するため、内外の関係者が続々と西部地区を訪れて視察するとともに、報道関係者も相次いで取材に訪れている。そして、西部大開発という好機を逃すまいと、西部地区についての資料を要望する手紙やEメールが多くの人々から寄せられている。そこで、世界に向けて中国西部地区の姿を明らかにし、ありのままの姿を紹介するため、五洲伝播出版社は本書『中国西部——青海』を始めとする中国西部地区の手引書を編纂することとなった。

中国西部地区は、さまざまな神秘に彩られた奥深く長い歴史を持っているため、紹介しなければならないことが実に多くある。

——西部地区は、中国で最も早期の原人が発見されたところである。雲南省では約170万年前の元謀原人が発見され、陝西省では約80万年前の藍田原人が発見された。

——西部地区は、10世紀前から中国の政治、経済、文化の中心であったところである。1100年以上にわたって周、秦、漢、隋、唐など13の王朝が陝西省に都を置いた。

——西部地区は、多数の少数民族が居住しているところである。新疆には47の民族、雲南には25の民族が生活しており、各民族がそれぞれ異なった生活習慣、風俗を持ち、中華民族の文化に豊富な彩りを添えている。

——西部地区は、中国の資源の宝庫である。統計によると、160種の鉱物資源がすでに発見され、希少金属の埋蔵量では全国の90%以上、水力資源では全国の80%以上を占めている。また、生物資源も豊富で、「植物王国」、「動物王国」、「生物の遺

伝子バンク」と称されている。

——西部地区は、中国の対外交流の重要な交通ルートである。古くは、シルクロードにより中国と中央アジア、南アジア、ヨーロッパを結び、今日では、ユーラシア大陸横断鉄道がここから通じている。ここは通商ルートであっただけでなく、黃河流域文化、ガンジス川流域文化、古代ギリシャ文化、ペルシャ文化の交流・融合地帯でもあった。

——西部地区は、中国の観光名所である。名所旧跡は数え切れないほどあり、そのうちの一部はユネスコの世界遺産に登録されている。

以上のように数え上げればきりが無いが、編集にあたっては遺漏のないよう、行政区画に基づき、西部地区の各省（自治区、直轄市）をそれぞれ紹介することで万全を期した。

西部地区は、「日新月异」という形容が大げさではないほどのスピードで発展している。本書の編集にあたって、私たちを最も頭を悩ませたのは統計データ、とりわけ経済面での数字であった。だが、私たちは一つ一つの関係資料と数字に対して真剣に取り組み、何度もチェックを行ったことを明言する。しかし、本書が読者の手元に届くとき、その数字に変化がないとは言い切れない。これらの数字はあくまで執筆時点での状況を反映したものであり、こうした数字を参考として考えていただければ幸いである。

改革・開放政策の実施以来、中国の経済はめざましい勢いで発展し、多くの奇跡をつくり出した。そして今、人々は、西部大開発がさらに大きく新たな奇跡をつくり出すものと期待している。中国には『春の物語』という歌があり、その歌詞には「それは1979年春のこと、一人の老人が中国南部の沿岸に丸印をつけた。それはまるで御伽噺（おとぎばなし）のように頭をもたげて城となり、まるで奇跡が起こったように寄り集まって金の山となった……」と唄われている。そして今また、中国の大地に、国土の半分を覆うほどの比類なく大きな丸印がつけられたのが西部大開発なのである。いま人々はこんな予言をしている。西部大開発が成功を収める時、それは中華民族が全面的にはばたく時である、と。

李 冰

2000年10月

目次

序文

P4



第一章 長江、黄河の発源地

重要な地理的位置.....	4
山と水に恵まれた省.....	4
高原の大陸性気候.....	6
行政区画.....	7
かなり少ない人口.....	7
省都の西寧市.....	8

P13



第二章 多民族が融合し、発展、進化した歴史の舞台

悠久な歴史.....	13
多民族の居住地.....	14
民族区域自治.....	16
互いに融合しあった民族文化.....	17
多種多様な宗教の共存.....	19

P23



第三章 自然資源の大きな宝庫

広大な土地資源.....	23
豊かな水利・電力資源.....	24
種類が多くて埋蔵量の大きい鉱物資源.....	25
野生動植物.....	26
環境保護型の新エネルギー.....	27
資源開発の五大基地.....	29

P32



第四章 起点は低いが発展の速い経済

工業発展の概況.....	33
インフラ建設.....	33
発展の速い農業・牧畜業.....	35
なお強化しなければならない生態環境整備.....	36
たえず改善される都市、農村の暮らし.....	37
日に日に強化される教育と科学技術.....	39
拡大しつつある対外開放.....	43

P44



第五章 自然と文化の輝きにみちた著名な観光地

壮大で美しい山と川.....	45
さんぜんと輝く歴史と文化.....	49
豊富多彩な民間の風俗.....	50
それぞれの特色をもつ四大観光区.....	52
主な観光スポットの概況.....	54

P60



第六章 民を豊かにし省を強大にする大開発戦略

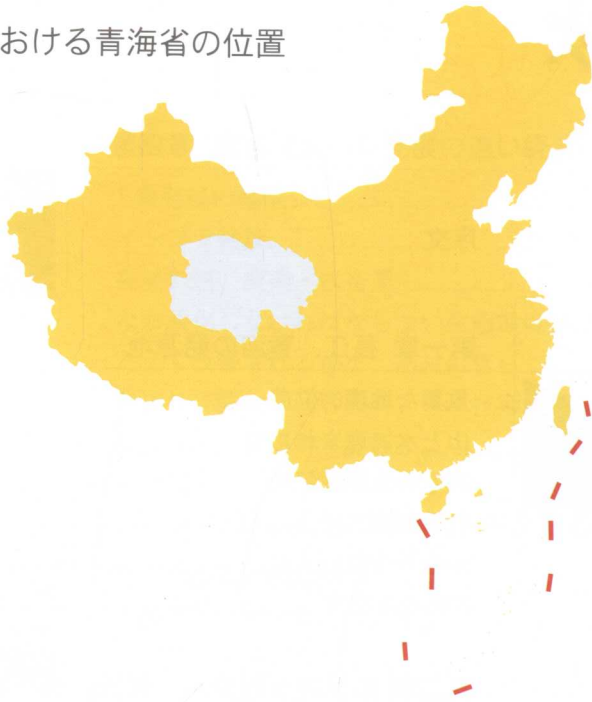
三つの段階.....	60
三つの転換と四つの結合.....	61
五つの重点.....	62
八つの原則.....	69
「第10次5カ年計画」.....	71

青海省の州、市、地区の概況.....	86
--------------------	----

附録.....	104
---------	-----

編集を終えてから.....	113
---------------	-----

中国における青海省の位置



青海省行政区の略図



序文

青海省は青と略称され、この省にある青海湖にちなんでこう名付けられたのである。

青海省は人口数から見れば、小さな省で、人口はわずか518万。面積から見れば、大きな省で、総面積は72万平方キロで、全国で4番目に大きな省である。経済から見れば、貧しい省で、年間GNPは200余億元以下で、全国の経済総量の中では非常に小さな数字である。資源から見れば、富める省で、自然資源が非常に豊富で、各種鉱物は125種に達し、そのうち52種の確認済み埋蔵量は全国で10位以内に入り、土地、エネルギー資源、生物資源も豊富である。青海省のこうした小さくて大きい、貧しくて富んでいる矛盾した現象は、歴史と地理的環境がもたらしたものである。

1949年の新中国成立以来、特に改革・開放20数年来、青海省は全般的に貧困から富める方向に向かって1歩ずつ転化してきた。省全体のGNPは、1999年は建国当時の1949年より40余倍も増えた。これは青海省の以前と比べれば、非常にすばらし

西寧市の夜景



い成果であり、青海省自身の強大な発展力をはっきりと示している。

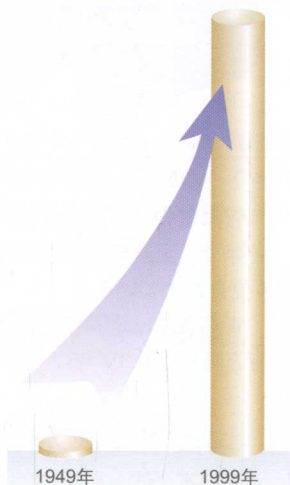
中央が打ち出した西部大開発実施戦略は、青海省の急速な発展と立ち遅れた様相を徹底的に変えるために、千載一遇のチャンスをもたらしている。中央の要求と省そのものの実情に基づいて、青海省は民を豊かにし省を強大にする大開発戦略を打ち出した。



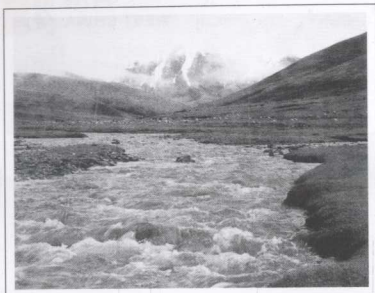
湟水の秋

青海省の発展目標は初歩的に確定している。2001年から2005年までの間に、全国に占める省全体の経済総量の比率は再び低下することなく、人民の生活はまずまずの生活レベルを基本的に実現している。2006年から2015年までの間に、省全体の経済発展レベルと全国のレベルとの格差は縮小に向い、人びとは基本的にゆとりのあるまずまずの生活ができるようになってきている。21世紀中期には、省全体において現代化を基本的に実現し、経済が繁栄し、社会が進歩し、生活が豊かになり、山と川が美しい新しい青海省に築き上げることになる。

江沢民国家主席の打ち出した「西部開発には新しい構構がなければならない」という要求に基づいて、青海省の開発、発展の戦略方向と基本構構は、西部大開発についての中央政府の戦略的思想を導きとし、民を豊かにし省を強大にすることを目標とし、強みのある資源を抛り所とし、市場ニーズを導きとし、改革・開放を原動力として、インフラ建設を速め、生態環境の整備を強化し、産業経済調整の度合いを増大させ、科学・教育による青海省の振興という足取りを速め、経済・社会の急速な発展を促して、各民族が共に繁榮することを実現することを目指すものである。



40 数倍伸びた青海省のGDP
(国民総生産)



第一章

長江、黄河の発源地



重要な地理的位置

青海省は中国中部の西寄りの地域、青海・チベット高原の北東部、東経 $89^{\circ}35'$ — $103^{\circ}04'$ 、北緯 $31^{\circ}39'$ — $39^{\circ}19'$ の間にある。北と東は甘粛省と隣接し、南東は四川省に接し、南と南西はチベット自治区と連なり、北西には新疆ウイグル自治区があり、チベット、新疆、内陸部を結ぶ紐帯である。

青海省の東西の長さは約 1200 キロ、南北の幅は 800 余キロ。面積は 72.12 万平方キロで、全国総面積の 13 分の 1 を占めて、新疆、チベット、内蒙古に次いで全国で 4 位を占めている。

青海省には全国で最大の塩湖——青海湖があり、そのために青海省と名付けられ、青と略称されている。

山と水に恵まれた省

青海省全体が高原地区に属する。省全体の平均海拔は 3000 メートル以上である。最高の海拔は 6860 メートル、最低の海拔は 1650 メートルである。全般的に言って、北部は山地で、中部は盆地で、南部は山岳地帯と山地である。各地の地形の違いがかなり大きく、東部の多くは高い山と深い谷で、西部は山と広い谷か盆地である。

青海省は山が多い省である。崑崙山は青海省の高い山の主体をなすもので、海拔は平均 5500 メートル、神秘さにみちている。古代の人たちはこの山のことを「神の山」、



湖

青海省の地形

「山」と呼んでいた。唐古拉（タングラ）山が青海省西南部に横たわり、青海とチベットの天然の境界線である。青海省西北部の阿爾金（アルキン）山は新疆ウイグル自治区と接し、石油の埋蔵量が豊富である。祁連山は青海省と甘肅省の間に位置する。青海省には極めて高い山、高山、中程度の山、低い山、丘、平原がある。山には草木が生い茂り、山のふもとは農業と牧畜業に適している。そのほかに、「阿川の揺りかご」と称されている巴顔喀拉（パイエンコラ）山、「雪山の父」と称されている阿尼瑪卿（アニマチン）山などの高い山がある。

青海省は水資源も豊富である。人びとは青海のことを「山と水」の里と称している。

中国の最長の大河——長江と二番目の大河——黄河の源はいずれも青海省にある。長江はタングラ山主峰の格丹東（ゴタントン）雪山の姜根迪如（チャンゲンケイジャ）大氷河に源を発し、青海省内を流れている区間の長さは1200余キロで、青海省南部高原を横断し、流域内の山と川は雄壮で美しく、牧草地は肥沃である。黄河はパイエンコラ山脈の各姿各雅（コツコヤ）山麓に源を発し、青海省内を流れている区間の長さは約2000キロで、上流地域は深い渓谷で、大きな落差のある個所が集中し、河の

崑崙山





水は澄みきっており、流れが急であり、大きな水エネルギーの資源がある。瀾滄江も青海省に源を発し、四川省、雲南省を経てインドへと流れており、国際河川である。青海省は長江、黄河、瀾滄江という三大河川の発源地であるため、高原に位置するため、「河川の源」と「中華の給水塔」とたたえられている。

青海省は湖が多く、湖の面積はチベットに次いで中国で2位を占めている。省全域に面積0.5平方キロ以上の湖が458もあり、湖の総面積は12855.8平方キロに達する。最大の湖は青海湖で、面積は4573平方キロで、水面の海拔は3195メートルで、著名な泰山の山頂より倍も高く、湖水の最も深い所は32メートルである。

青海省は氷河の分布も広く、主に崑崙山、祁連山、タングラ山に分布している。氷河の面積は4620.71平方キロで、トータルで3988億立方メートルである。

全国の主要な水源として、青海区域は水分涵養機能が著しく、国の生態環境保護と整備の戦略的要地の一つである。

高原の大陸性気候

青海省の気候は高原大陸性気候に属し、気温が低く、大部分の地区は乾燥して雨が少ない。年間平均気温は南北が低く、中部がより高い。南北地区では普通0°C以下、最低-4°C以下で、中部地区では普通0—8°Cの間である。月間平均気温は7月が最高で、1月が最低である。霜が降りない期間は長くて185日間（循化県）で、多くの地区は数十日間だけである。

青海省各地の自然環境の違いははっきりしており、気候が異なっている。青海省の農業に関する諺に「山に四季があり、10里の地域に異なった空がある」というものがある。

青海省は中国の日照量が最も多い地区の一つである。地形が高く、乾燥して雲が少なく、日照時間が長く、年間日照時間の長さは2328ないし3575の時間で、国内の同じ緯度の地区より400ないし600時間多い。

行政区画

青海省は現在 1 地区クラス市、1 地区、6 民族自治州、30 県、7 民族自治県、2 州所属市、4 市管轄区、3 行政区を管轄している。

青海省は内陸部の奥地に位置し、自然環境が特殊で、県クラス行政区画の管轄地域面積は大きい、人口密度は小さい。省全域の 46 県（市街区）の中で、人口 15 万人以下のものは 37 県で、そのうち 5 万人以下のものは 23 県、瑪多県はわずか 1 万余人である。

かなり少ない人口

青海省は中国で人口の最も少ない省の一つである。新中国成立時の 1949 年の人口は 148 万で、2000 年は 518 万人に（2000 年第 5 回全国国勢調査による）増えた。1990 年（第 4 回全国国勢調査）の 446 万人より 72 万人増加し、年平均増加率は 1.47% であった。青海省は土地が広くて人口が少なく、人口密度は 1 平方キロ当たりわずか 7.19 人で、チベットだけよりは高い。省全体の人口の分布はアンバランスで、西寧市と東部農業地区の面積は省全体の 2.84% しか占めていないのに、人口は省全体の 67.2% を占めている。

独特な地形





年間日照時間数 2328—
3575 時間

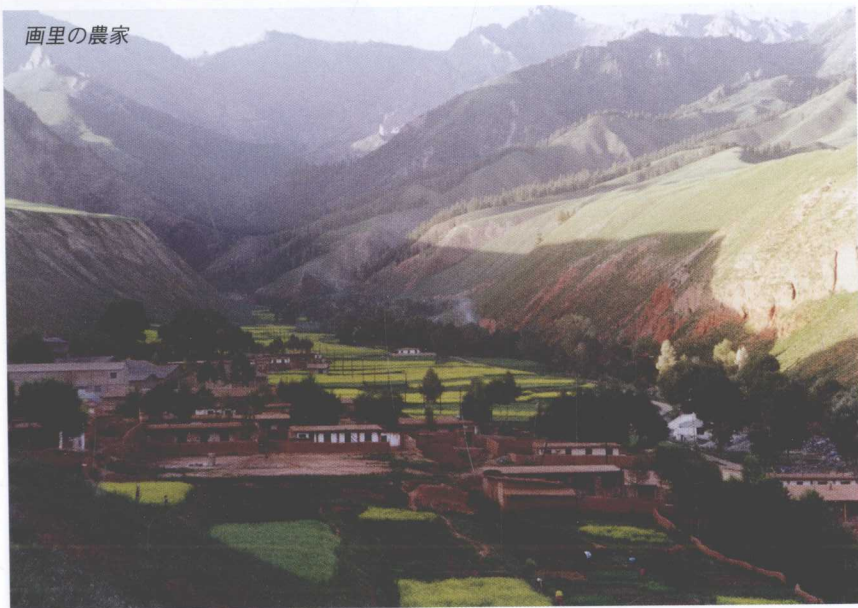
省都の西寧市

西寧市は青海省の省都で、青海・チベット高原の東部、黄河の支流湟水の支流に位置し、市街区の海拔は平均 2275 メートルで、大陸の高原半乾燥気候に属し、年間平均気温は 6.5°C、年間平均降水量は 327 ミリメートル、冬は厳寒がなく、夏は酷暑がなく、天然の避暑地である。西寧は 2100 余年の悠久な歴史をもっている。現在、城東、城中、城西、城北の 4 区と大通、湟中、湟源の 3 県を管轄し、総面積は 7665 平方キロで、2000 年の常住人口は 197.92 万で、そのうち市街区面積は 350 平方キロ、人口は 71.1 万で、漢族、回族、トウ族、チベット族、蒙古族、サラ族など 35 の民族からなる。黄河上流における人口百万以上の中心都市の一つである。

西寧市には豊富な地表資源と地下資源があり、湟水河が市街区を貫流し、年間の流量は 18.94 億立方メートルである。耕地面積は 14.4 万ヘクタールで、開発の将来性は大きい。

西寧市は青海省と他の地域および省内各地を結びつける交通センターであり、蘭州＝青海、青海＝チベット自動車道路と鉄道が市内を通っている。10 数本の幹線道路

画里の農家





西寧市の祝日の夜

が西寧經由で省内外の地域を結んでいる。旅客列車と貨物列車は北京、上海、西安などの都市に通じている。西寧空港の航空ルートは北京、上海、広州、ラサなどに通じている。

西寧市は省都として、ここ数年、都市のインフラ建設への取り組みに力を入れ、相前後して高速道路、インターチェンジ、公園、スポーツセンターなど多くのインフラ施設と住宅プロジェクト、ゴミ処理場、汚水処理場、排水管改造など一部の新しいプロジェクトにも着工している。1999年における市全体の電話交換機総容量は23.2万回線に達し、携帯電話とポケットベルのシステムがワンセットとなっている。

西寧市の工業は機械、軽工業、紡績工業、化学工業、建築材料、冶金、皮革、毛皮、食品を主体とし、工業の業種がそろっている中心都市の一つである。工作機械、建設機械および各種工具の生産は一定の規模とレベルに達している。西寧市の地方の特色と結び付けて、自然食品、乳製品シリーズを大いに発展させ、一部製品はすでに国外に輸出されている。

西寧市の近郊は野菜の栽培を主とし、都市の重要な「買物かご」生産基地で、管轄している3県は食糧と食用油の生産を主としている。西寧市の農村経済は農業生産を基礎とし、野菜、食糧、食用油、牛乳、タマゴ、肉、魚などの副食品を重点とする郊外型経済構造となっている。

西寧市は古い「シルクロード」の南側ルートに位置し、古代の東西往来において必ず通らなければならないルートであった。美しい高原の風景、悠久な河湟文化は、西

